

伊藤ひろし伝言板

第1回市政報告会開催！

6月定例会の一般質問を無事、終える事ができました。つきましては、第1回市政報告会を開催致します。同時に市民のみなさまと様々な意見交換ができれば幸いです。下記の日程・会場で行ないますのでふるってご参加下さい。(会費は無料です。駐車場はございません。)

日時:7月21日(土) 10時～11時
場所:袖ヶ浦自治会館(袖ヶ浦2-4-10)



ブログ更新中！！

日々の活動をより身近に
分かりやすく伝えます！！
検索か、アドレスを入力して
下さい。

習志野市 伊藤ひろし

検索

<http://www.hiroshi-ito.com>



健康 マメ知識

もうすぐ暑い夏がやってきます。
キュウリはカリウムが多い為利尿作用
が抜群！体にこもった熱を尿と一緒に
排出します。食べ方は
生がオススメです。
さっぱりと味噌や塩で
頂いて下さい！



活動ボランティア募集中！

今の習志野市の現状は？
伊藤ひろしは何を訴えているの？
駅頭活動を行なっておりますが、駅だけでは市民
の皆様要充分現状を伝える事ができません。
家の近くのポスティングをしてくださる方、御友人に
かわら版を配布して下さる方を募集しております。
10部でも構いません。下記連絡先に御連絡
お願いします。

〒275-0021
習志野市袖ヶ浦2-4-1-201
電話・FAX：047-454-8358
e-mail：hiroshi-ito@hiroshi-ito.com

伊藤ひろしプロフィール

1975年 10月22日生まれ 31歳
東海大学付属望洋高校 卒業
東海大学政治経済学部 卒業
医薬品販売業に従事
松下政経塾の地域政経塾卒塾
青年塾出発
(松下政経塾元塾頭 上甲晃氏主宰)

趣味はソフトボール・バドミントン・釣り・卓球

伊藤ひろし

習志野市議会議員

習志野 ずっと住みたい まち計画

2007/7 第8号

伊藤ひろし初一般質問 「迅速な救命」について問う

6月11日に初めての一般質問を行ないました。
今回は「安全・安心なまちづくり」をテーマに下記の
4点について質問をしました。

- ① 高機能消防指令センターの機能について
- ② 救急救命士の養成について
- ③ 要災害援護者の救済について
- ④ 京成線の踏切の解消について

習志野市の現状と質問内容を織り交ぜながら
お伝えします。



① 高機能消防指令センターの機能について

習志野市は、年々救急出動件数が増加し、10年前に比べて1.6倍増となってい
ます。緊急車両が1秒でも早く駆けつけ、救命活動が迅速に行なわれる事は、市民
にとっての大きな望みであります。今回、高機能消防指令センターの導入にあたり、
現在の指令台より優れた機能と救命活動への具体的な効果を伺いました。

- Q. 現場到着までどれくらい時間が短縮できるのでしょうか。
- A. 道路状況や時間帯、道路工事の状況などにもよるため、具体的短時間ははっきりは
分かりません。しかし、出動隊に対する指令がコンピューターにより自動化される事
や、災害発生地点までの緊急車両の順路、付近の住宅地図などが表示できる事によ
って現状より短縮する事が可能です。
- Q. 電話機まで行く事が困難な緊急通報装置の利用者には効果はあるのでしょうか。
- A. 通報と同時に設置者の住所・氏名・掛かりつけの病院関係者への連絡先などの情報
が表示され、迅速できめ細かい対応が可能となります。

住居者や建築物、道路状況も日々変わるのでこまめな地図情報の更新を
要望しました。

・ 高機能消防指令センターとは・・・

来年3月に完成予定で固定電話やGPS付き携帯電話の通報を受けると発信場所が
瞬時に把握でき、緊急車両の地図情報にも掲載されるシステムです。

② 救急救命士の養成について

習志野市では高齢化が進み、昨年の65歳以上の人口は2万4879人です。7年後には3万5013人と8756人増加すると推計されています。更に、昨年度の年齢別搬送状況は65歳以上の方が42%を占めています。高齢者が増えるこの先、一刻を争う出動要請が増えるの見込まれます。高度な応急処置ができる救急救命士が搭乗する事により、救急隊員に比べて蘇生率が1.5倍違うという資料があります。そこで、習志野市における救急救命士の養成について伺いました。

Q. 人口同規模の他市と比較して救急救命士の養成状況はどうなっているのですか。

A. 浦安、鎌ヶ谷、八千代市などとほぼ同程度です。現在、市内5つの消防署に対して15人の救急救命士が勤務しています。

Q. これからの養成計画と資格所得までに掛かる期間と経費はどのくらいですか。

A. 平成21年度までに5人を養成し20人とする予定です。養成期間については、6ヶ月の研修と国家試験に合格した後、病院実習等を行ないます。病院実習を修了するまでに掛かる費用は約325万円程度となっています。

職員採用時に専門学校などを卒業し、国家資格を持った人を採用する事により予算・研修期間の削減ができ、計画よりも多い救命士が配置できると思うので是非、検討していただきたいと要望しました。

③ 要災害援護者の救済について

習志野市では、この先30年の間に震度6弱の地震が起こる確率は10.6%、震度5弱の地震に至っては65.5%との調査結果が出ています。近年、日本で起きた大地震・豪雨では、被害の多くが高齢者に集中しています。高齢者、障がい者の方の人口が増えている現状で、緊急時の要災害援護者への支援が地域の重要な課題になっています。災害時に自力で避難する事が困難な在宅要災害援護者の救済体制について質問しました。

Q. 災害援護者に該当する方の人数は把握しているのですか。

A. 在宅のひとり暮らしの高齢者や寝たきり等の要援護高齢者・障がい者の状況については、サービスを提供している方々のみ名簿を管理しています。今後、家族構成を考慮し、障害者団体との協議で把握する必要があると考えています。

Q. 地域では、要援護者の救済・情報収集のために何か取り組ましているのですか。

A. 民生・児童委員により、75歳以上の1人暮らし世帯や高齢者世帯の生活実態調査を実施し、その調査が災害援護者の情報源になると考えます。

現在、個人情報保護の関係でボランティア組織へ、情報が提供できないとの事です。災害援護者登録制度を創設して、情報の共有化できる体制に務めていただけるよう要望しました。

④ 京成線の踏切の解消について

以前、大久保駅周辺の踏切で救急車が横断できないという状況を目撃し、「開かずの踏切」が大きな障害となる事を強く感じました。そこで、現状の把握や対策について伺いました。

Q. 1分1秒が命に係わる大切な救急救命に対して「開かずの踏切」は、大きな障害になると思われますが市長の見解はいかが質問しました。

A. 市内を南北に移動する際には、ほとんど京成線踏切を通行せざるを得ない実態にあり、人命に係わる救急自動車の迅速な走行の障害になっており、本市の交通政策上の大きな課題を投げかけています。広範囲に渡っての交差を解消するには、鉄道の立体化事業が最も有効と考えます。本市と致しましては、現在進めている都市計画道路の整備等の実現に全力を傾注してまいり所存でございます。併せて、道路と鉄道の交差方式等について、関係機関などと調査・研究を進めて参りたいと考えています。

Q. 都市計画道路の完成を待たずに、地元の習志野市から県にアプローチをかけて踏切の解消に取り組む姿勢が必要ではないかと思えます。実現するにあたり、国・自治体・鉄道事業者の役割分担や事業費の負担割合について伺います。

A. 鉄道事業費については10%前後を鉄道事業者が受益相当分として負担し、これを除く都市側負担は、国庫補助金のうち都道府県が3分の2、地元市が3分の1の財源でまかなわれる事になります。

Q. 未来を見据えたまちづくりとして高機能消防指令センター整備事業費3億8000万円と同規模の一般財源を基金として積み立てることにより、早期計画の実現につながると思うがどのようにお考えでしょうか。

A. 基金として積み立てておくことも一案として考える事はできます。しかし、取り組まなければならない事業が沢山ある習志野市で事業実施が未定の将来の事業の為に積み立てるより、現在の課題解消に振り向けざるを得ないのが現状です。

Q. 高架化に替わる暫定的な代替案として車両のスピードを判断して遮断時間を短縮する「賢い踏切」は導入できないのか。

A. 「賢い踏切」は習志野市の全ての踏切に導入済みであると確認しています。

県の調査によると市内の数々の踏切が、ボトルネック踏切に上げられていることを指摘しました。早期実現を目指して県にアクションを起こす事と、代替案として、踏切の周辺道路の整備を行なう事で今の問題が少しでも解決されるのではないかと提案を致しました。

